

胡瓜のビニールトンネル栽培に関する研究

第2報 地域別による胡瓜直播ビニールトンネル栽培法について

酒 井 雄 行・横 井 正 治

(青 森 県 農 試)

本場で行った直播ビニールトンネル栽培(第1報)についての結果, 増収効果が顕著であったので, 指導奨励の資料に供する目的で, その地域性を知るため県下津軽地区と南部地区の2カ所において試験を実施した.

試 験 場 所 弘前市大字石川
十和田市大字藤島

耕 種 法 供試条件以外は慣行法による

1区面積及区制 1区2.5坪 2区制

供 試 面 積 30坪

供 試 品 種 加賀青長節成

供 試 区 別 無被覆区(標準)

3.1尺巾梨地ビニール区

6尺巾透明ビニール区

播 種 期

ビニール区 弘前 4月20日 十和田 4月26日

標準区 弘前 5月6日 十和田 5月10日

栽 植 距 離 2.5尺×1.5尺

ビニール被覆の時期 播種時

ビニール被覆期間 40日

被 覆 の 方 法

ビニールの巾 3.1尺 6.0巾

トンネルの巾 2.1尺 4.8巾

トンネルの高さ 1.0尺 1.5巾

割竹の長さ 5.2尺 9.0巾

使用ビニール モンサント 0.075mm

試 験 成 績

発 芽 及 び 開 花 調 査

試 験 場 所	弘 前			十 和 田		
	3尺ビニール区	6尺ビニール区	標準区	3尺ビニール区	6尺ビニール区	標準区
発 芽 始	4.28	4.29	5.15	5.5	5.4	5.19
発 芽 揃	4.30	5.1	5.17	5.6	5.6	5.24
雌花開花始	6.14	6.15	6.30	7.3	7.1	7.14
雄花開花始	6.15	6.15	7.2	7.3	7.1	7.15
収 穫 始	7.4	6.30	7.15	7.16	7.15	7.28

収 量 調 査 (5坪当り)

(重量 匁)

	弘 前			十 和 田		
	3尺ビニール区	6尺ビニール区	標準区	3尺ビニール区	6尺ビニール区	標準区
収穫始め～7月10日	1,250	2,725	—	—	—	—
～ 20日	7,350	12,700	1,240	2,000	2,260	—
～ 31日	22,750	26,325	4,540	16,800	17,260	1,270
～8月10日	35,050	37,550	9,890	31,500	31,510	11,120
～ 20日	41,450	42,500	13,790	40,000	41,310	19,870
～ 収穫打切り	43,450	44,500	18,140	45,950	48,530	26,170
収 量 比 (%)	191	218	100	176	185	100
1 株 当 り	724	742	302	766	811	436
1 個 重	48	45	41	56	54	50
1 株 当 り 個 数	15	17	7	14	15	9
反当換算重量(匁)	2,607	2,670	1,088	2,757	2,912	1,570

備考 : 収穫打切りは8月31日

経 済 調 査 (5坪当り)

試 験 場 所	弘 前			十 和 田		
項 目	3尺ビニール区	6尺ビニール区	標 準 区	3尺ビニール区	6尺ビニール区	標 準 区
5 坪 当 り 収 量(匁)	43,450	44,500	18,140	45,950	48,530	26,170
1 貫 当 り 価 格(円)	43	44	47	40	41	38
5坪当り粗収入(円)	1,852	1,974	847	1,857	1,967	1,003
5坪当り資材費(円)	460	385	—	460	385	—
差 引 収 入 額(円)	1,392	1,589	847	1,397	1,582	1,003
坪 当 り 収 入 額(円)	278	318	169	279	316	201
収 入 比(%)	164	187	100	139	158	100
反 当 換 算(円)	83,520	95,340	50,820	83,820	94,920	60,180

備考：資材は3年使用出来るものとして計算

以上の結果から、ビニール区は、3尺ビニール・6尺のトンネル栽培が有利であると思われる。
ビニールとも収量は多いが特に広巾の6尺ビニール利用

西瓜の肉質変化に関する研究について

柿 崎 正 策・相 沢 富 夫

(山 形 県 農 試)

1. 目 的

西瓜栽培において年によりあるいは、収穫の時期によって西瓜の肉質が悪変し(通称コンニャクまたは血まわり)食用に適しない場合がしばしばある。そこでこれらの原因を究明し栽培上の参考にするため、1957年山形県農試において次のような試験を行った。

2. 試験材料及び方法

供試品種は、新都で4月5日夕顔台に接木を行い、その後本葉3枚時に1回仮植し、5月15日畦巾6尺、株間2尺に定植(密植整枝栽培)した。

試験区はA:第1節目より第2番花着生節位まで摘葉、B:第2番果着生節位後20節摘葉、C:第2番花着生節位を中心に20節摘葉、D:生育稍衰える程度に断根、E:標準無処理、の5つの区をもうけ各区とも収穫目的の第2番花が開花して25日目に処理を行った。

3. 試験成績

標準無処理のE区は、収量最も多く平均個重も1貫500匁以上あったが、他の区は1貫程度か、それ以下で特にB区及びC区は、個重も小さく従って収量も少なかった。

(i) 収量調査及び個重変異調査(調査個体7個)

収量及び個重	処理				
	A	B	C	D	E
全 個 重	6.780	5.380	5.480	7.050	10.620
平 均 個 重	0.968	0.768	0.782	1.007	1.517
600匁以下	—	1	—	—	—
601~800匁	1	3	4	—	—
801~1,000匁	3	3	3	4	—
1,001~1,200匁	3	—	—	3	1
1,201~1,400匁	—	—	—	—	2
1,401~1,600匁	—	—	—	—	2
1,601~1,800匁	—	—	—	—	—
1,801匁以上	—	—	—	—	1

(ii) 肉質悪変と特性調査

項目 処理	悪変程度と個重				糖 度	肉 色	皮の厚さ
	甚	中	弱	健			
A	1	2	2	2	8.0~9.5%	淡紫色 朱紅色	1.0~2.0 ^{cm}
B	2	3	2	—	5.0~7.0	淡紫色 朱紅色	1.0~1.5
C	4	2	1	—	5.0~8.0	淡紫色 紅 色	1.0~1.4
D	3	3	1	—	7.5~9.0	淡紫色 濃紅 色	1.0~2.3
E	—	—	2	5	9.0~10.0	紅 色 朱紅色	1.0~2.1